

新幹線新駅設置に向けた 検討をスタート

市は、1991年1月に策定した第3次直方市総合計画マイタウン2001において、福岡市・北九州市両都市圏の接点に立つ交流都市を目指し、新幹線新駅設置構想を掲げました。施策として、「人・物・情報の交流を盛んにし、地域の活性化を図るため、山陽新幹線新駅設置を目指すとともに、在来線筑豊本線と結節させ、県央中核都市としての機能集積を促進する」という内容でした。

その後、検討を進めましたが、多額の事業費を要することから2007年に新駅設置構想は凍結しました。ただし、構想については今でも持ち続け、2021年に策定した第6次直方市総合計画に引き継がれています。

一度は構想を凍結しましたが、その後植木地区には直鞍産業振興センターが開業し、さらには近接する地区に鞍手インターチェンジが開設。今年度からは、福岡県による直方・鞍手産業団地の造成が始まるなど、再び機運が高まってきました。

市では今後、植木地区にデータセンターをはじめとする企業誘致に注力していくことが

ら、福北ゆたか線と新幹線が交差する同地区への新駅設置について、再び検討を始めました。



新幹線新駅イメージ図

直方市「第3次直方市総合計画」マイタウン2001より

第2回

直方宗像線沿線の 広域交通を考える勉強会



講師
中央大学経済学部
やまさき あきら
山崎 朗 教授

3月28日、新幹線新駅設置について勉強会を開催し、香原勝司^{こうはらかつじ}県議会議員、^{はなだなおひこ}花田尚彦県議会議員、近隣自治体の首長、直方市議会議員、直方商工会議所、近隣商工会議所および商工会、福岡県担当部署などから約40人が参加しました。勉強会では、中央大学経済学部の山崎朗教授を講師に招き、「福岡中央駅(仮称)の建設に向けて」というテーマで講演を行っていただきました。

山崎教授は、「当該地域は、在来線と新幹線が交差するだけでなく、新幹線

と高速道路が並行して走っています。新幹線新駅と高速道路ICが近接した立地は全国的にもありません。通勤や通学といった人流だけでなく、将来の新幹線による物流の可能性にも対応できると考えられることから、新駅建設の合理性と正当性が十分にあります」と語りました。



近年の市政における新幹線新駅設置の取組

令和4年12月

令和6年3月

令和6年3月28日

「第1回直方宗像線沿線の広域交通を考える勉強会」開催

令和6年度施政方針において、新幹線新駅設置の検討を明記

「第2回直方宗像線沿線の広域交通を考える勉強会」開催